月　日　名前　　／50点

【答え】

【中1】国語 文章テスト　説明文 1/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

消しゴムで字を消すとき、何が起きているのだろうか。多くの人は、「消しゴムが字をこすり落としている」と考える。しかし、それは半分しか正しくない。

まず、鉛筆で書いた字の正体を考えてみよう。鉛筆の芯は、黒鉛という黒い粉を粘土で固めたものだ。紙に芯を押しつけて動かすと、黒鉛の細かい粒が削れて、紙の表面に残る。紙の表面は、目に見えないほど細い繊維がからみ合ってできているので、粒はその繊維のすき間に引っかかる。これが、鉛筆の字である。つまり、字は紙に「しみこんで」いるのではなく、紙の上に「のっている」だけなのだ。

次に、消しゴムのはたらきを見てみよう。消しゴムを紙にこすりつけると、ゴムの表面が少しずつ削れる。このとき、削れたゴムは、紙の上の黒鉛の粒を包みこむ。黒鉛は、紙の繊維よりもゴムにくっつきやすい性質を持っているからだ。粒を包んだゴムは、ぼろぼろと紙からはがれ落ちる。これが「消しかす」である。

だから、消しかすをよく見ると、黒いものと白いものが混じっている。黒い部分は、消しゴムが持ち去った字のかけらなのだ。消しゴムを使うと小さくなっていくのは、字を消すたびに、自分の体の一部を消しかすとして手放しているからである。

このように考えると、消しゴムは字を「こすり落とす」道具というより、字を「引き取る」道具だと言えるだろう。身近な道具にも、よく見れば、思いがけない仕組みがかくれている。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　鉛筆の字は、紙の上にどのようにあると筆者は述べていますか。本文中から五字で抜き出しなさい。

のっている

問二（十点）　「粒はその繊維のすき間に引っかかる」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　黒鉛が粘土で固められているから。
イ　紙の表面が、目に見えないほど細い繊維のからみ合いでできているから。
ウ　鉛筆の芯を紙に強く押しつけるから。
エ　黒鉛が紙の中にしみこむから。

イ

問三（十点）　消しゴムをこすりつけると字が消える仕組みを、「黒鉛」「ゴム」の二つの言葉を使って、四十字以内で説明しなさい。

削れたゴムが、紙よりくっつきやすい黒鉛の粒を包みこみ、紙からはがれ落ちるから。

問四（十点）　「消しゴムを使うと小さくなっていく」のはなぜですか。その理由を本文中から三十五字以内で抜き出しなさい。

字を消すたびに、自分の体の一部を消しかすとして手放しているから

問五（十点）　この文章の組み立ての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　最初に結論を述べ、そのあとで反対の意見を紹介している。
イ　身近な問いから始め、鉛筆の字と消しゴムの仕組みを順に説明し、最後に筆者の考えを述べている。
ウ　実験の結果を数字で示しながら、消しゴムの歴史を説明している。
エ　消しゴムの種類をいくつか比べて、最もよいものをすすめている。

イ

free-print.net ｜ 文章・問題はプリントのたねの書き下ろし ｜ 学校・塾での印刷・配布は自由です

月　日　名前　　／50点　　合計　／100点【答え】

【中1】国語 文章テスト　物語文 2/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

姉が家を出たのは、四月の初めだった。大学の近くで一人暮らしを始めるのだと、春休みのあいだじゅう、段ボールに本を詰めていた。

ぼくは手伝わなかった。手伝えば、本当に出ていってしまう気がしたからだ。

姉がいなくなった次の日、母が言った。「あの机、あんたが使いなさい。」姉の机は、ぼくの机より大きくて、引き出しが三つもある。前から少しうらやましかった。でも、ぼくは「いい」と答えた。自分の机で十分だと思ったし、なにより、姉の机に座るのは、姉がもう帰ってこないと認めるようで、いやだった。

それから一週間、姉の部屋の前を通るたびに、ドアを少しだけ開けて中を見た。机の上には何もなかった。カーテンだけが、前と同じように風でゆれていた。

日曜日の午後、ぼくは数学の宿題を持って、姉の部屋に入った。理由はよくわからない。自分の部屋は弟がゲームをしていてうるさかった、というのは、あとから考えた言い訳だ。

いすに座ると、机の右のはしに、小さなきずがあるのに気づいた。カッターで引いたような、細い線だ。指でなぞると、少しへこんでいる。姉がいつつけたのか、ぼくは知らない。姉がここで何を考え、何に困っていたのかも、ぼくは何も知らないのだと思った。

宿題は、いつもより早く終わった。

夜、姉から母のスマホにメッセージが来た。「机、使ってる？」と書いてあった。母がぼくに画面を見せた。ぼくは少し迷ってから、「きずがあった」とだけ返事を打った。

すぐに返事が来た。「それ、中一のとき。数学がわからなくてやった。」

ぼくは声を出して笑ってしまった。それから、机のきずをもう一度なぞった。今度は、へこみが少しだけあたたかい気がした。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　「ぼくは手伝わなかった」とありますが、その理由を本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

本当に出ていってしまう気がしたから

問二（十点）　ぼくが「いい」と答えた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　自分の机のほうが大きくて、使いやすかったから。

イ　姉の机を使うと、姉がもう帰ってこないと認めるようで、いやだったから。

ウ　母に命令されるのが、気に入らなかったから。

エ　姉が机を持っていくと思っていたから。

イ

問三（十点）　「姉がここで何を考え、何に困っていたのかも、ぼくは何も知らないのだと思った」とありますが、ぼくがそう思うきっかけになったものは何ですか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

小さなきず

問四（十点）　「今度は、へこみが少しだけあたたかい気がした」とありますが、このときのぼくの気持ちを、四十字以内で説明しなさい。

姉も自分と同じように数学に悩んでいたと知り、姉を身近に感じてうれしく思う気持ち。

問五（十点）　この文章の表現について述べたものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　「ぼく」の視点から、姉に対する気持ちの変化を、机のきずを通して描いている。

イ　姉の視点から、家に残した弟を心配する気持ちを描いている。

ウ　会話文を多く使って、家族全員の性格をくわしく説明している。

エ　季節の描写を中心に、一年間の出来事を順に描いている。

ア

【中1】国語 文章テスト（100点）　説明文 1/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：のっている

解説：第二段落の最後「字は紙に『しみこんで』いるのではなく、紙の上に『のっている』だけなのだ」が根拠。対比されている「しみこんで」と取り違えない。

問二（十点）　答え：イ

解説：直前の「紙の表面は、目に見えないほど細い繊維がからみ合ってできているので」が理由。エは本文で否定されている。

問三（十点）　答えの例：削れたゴムが、紙よりくっつきやすい黒鉛の粒を包みこみ、紙からはがれ落ちるから。

解説：第三段落の順序（ゴムが削れる→黒鉛の粒を包む→紙からはがれ落ちる）をたどる。「黒鉛」「ゴム」の両方が入っていること。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①削れたゴムが黒鉛の粒を包みこむ

②粒を包んだゴムが紙からはがれ落ちる

問四（十点）　答え：字を消すたびに、自分の体の一部を消しかすとして手放しているから

解説：第四段落の最後の一文。「～からである」の「である」は付けても付けなくてもよい。

問五（十点）　答え：イ

解説：第一段落が問い、第二・三段落が仕組み（「まず」「次に」）、第四段落がそこから分かること、第五段落が筆者の考え（「このように考えると」）。

【中1】国語 文章テスト（100点）　物語文 2/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：本当に出ていってしまう気がしたから　（本当に出ていってしまう気がしたからだ でも正解）

解説：第二段落の「手伝えば、本当に出ていってしまう気がしたからだ」が根拠。「～から」で終わる部分をそのまま抜き出す。

問二（十点）　答え：イ

解説：第三段落の「なにより、姉の机に座るのは、姉がもう帰ってこないと認めるようで、いやだった」が根拠。アは本文と逆（姉の机のほうが大きい）。ウ・エは本文にない。

問三（十点）　答え：小さなきず　（机のきず でも正解）

解説：第六段落。机のはしのきずを指でなぞったことが、姉の知らない一面に気づくきっかけになっている。

問四（十点）　答えの例：姉も自分と同じように数学に悩んでいたと知り、姉を身近に感じてうれしく思う気持ち。

解説：直前の「数学がわからなくてやった」という姉の返事と、「声を出して笑ってしまった」から読み取る。前の場面では「何も知らない」と感じていたきずが、姉とつながるものに変わっている。採点は上の二点。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①姉も自分と同じように（数学で）悩んでいたと知った

②姉を身近に感じている・さみしさがやわらいだ

問五（十点）　答え：ア

解説：語り手は「ぼく」で、きずが「何も知らない」しるしから「あたたかい」ものへ変わることで気持ちの変化を表している。イは視点が違う。ウ・エは本文の特徴と合わない。